認定特定非営利活動法人

ぶどうのいえだより

編集・発行：大隈 廣　〒113-0032 東京都文京区弥生 1-3-12
TEL 03-3818-3362　FAX 03-3818-3392

No.89　2023 年　夏

ぶどうのいえ理事を拝命して

横山 融

今年 3 月の運営会員通常総会でぶどうのいえ理事に任命いただいた横山融（とおる）と申します。ぶどうのいえ発足以来運営会員として末席をけがしておりましたが、このたび大隈理事長から強いご要請があり理事会に加えていただくことになりました。

自己紹介：先日 73 歳の誕生日迎えましたが、40 年余のサラリーマン生活を 65 歳で終え、以降は非常勤理事や聖公会信徒としてのお役目を果たすことで日々を過ごしております。趣味としては、定年後の自由時間を活かし音楽好きの延長として老化防止を兼ね歌う楽しさを味わっております。その他好きな読書の中から最近読みました本を一冊ご紹介し、ご挨拶にかえさせていただきます：

井出孫六著「いばら路を知りてささげし―石井筆子の二つの人生」（岩波書店 2013 年）。社会福祉法人・滝乃川学園の創設者石井亮一の妻として、夫を支えつつ彼の死後も文字通り命を捧げて学園の維持発展に貢献した筆子の働きをご存知の方も多いことと思われますが、彼女の前半生とあまりに違う後半生のすさまじさに圧倒されます。

石井筆子は幕末 1861 年に肥前大村藩に明治維新の志士・渡辺清の長女として生まれ、1873 年には上京して官立・東京女学校に入学した。同校が廃止となったのち、オランダ公使の従者として渡欧し、オランダ、フランスで学び帰国後、同郷の高級官吏・小鹿島果と結婚、次いで華族女学校の教師となりフランス語を受け持った。女子教育振興組織の「大日本婦人教育会」創設に関わり、貧困家庭の女子の自立を図るための職業教育を無料で行い女紅女学校を開設する一方、鹿鳴館の舞踏会でも活躍し「鹿鳴館の華」と評判であった。

3 人の女子に恵まれたが、いずれも重度の知的障害児で短命であった。1892 年に夫が病死し、翌年には聖修女学校校長に就任し、女子教育者として活躍した。その後、娘を石井亮一の主宰する滝乃川学園（1891 年創立）に預けていた経緯から、学園への援助を惜しまないようになり、種々の困難な状況を克服してその生き方に賛同した石井亮一と再婚し、実際に教育現場に立つ一方、華族出身の利点を活かし広く経済的支援を受けることに成功し、学園の発展に貢献した。学園は 1921 年の大火、震災、1928 年の現在地への移転、亮一の死去等で存続の危機を何度も迎えたが、筆子は 76 歳の高齢かつ病身で第２代学園長に就任し 1944 年に 83 歳で亡くなるまで、学園が戦災を乗り越えるための土台作りに身を削って邁進した。

筆子は、前半生では文字通り才色兼備で上流士族の出であったが、維新直後の日本にあっても国際感覚を身につけており、国の発展には女子教育が欠かせないことを見抜くとともに実践していた。結婚後、子どもたちが重度の障害を持ったことをきっかけに富国強兵まっしぐらの国内にあって、我が子のみならず知的障害児の教育の重要性に気づき実践した後半生は特筆されるものであった。

ぶどうのいえの活動も、コロナ蔓延のみならず医療体制の進歩などの影響を受け厳しい状況にありますが、重要性の高い事業こそ多くの試練に打ち克って発展させて来た歴史があり、そのためには多くの働き手と支える人たちの協力が欠かせないことを実感させられた一冊でした。

（ぶどうのいえ　理事）

外部団体との連携

☆　「認定 NPO 法人　難病のこども支援全国ネットワーク」

4 月 10 日に専務理事の福島慎吾氏がぶどうのいえに来訪され、施設の案内と懇談をおこないました。5 月 13 日には、「親の会連絡会」に Zoom で２名が参加。30 分間パワーポイントを使ってぶどうのいえを紹介しました。6 月 25 日には、シンポジウムに６名参加しました（下記）。
また、7 月号　機関誌『がんばれ！』にぶどうのいえ紹介記事を載せていただきました。

シンポジウムに参加して

野島千恵

6 月 25 日（日）14 時から飯田橋レインボービルで開催された「第 44 回こどもの難病シンポジウム」に参加しました。

主催者である「難病のこども支援全国ネットワーク」の創設者、小林信秋さんは、2022 年 7 月 10 日に永眠されました。小林さんは、ご自身の体験のみならず、親たちの声に耳を傾け、30 年以上にわたり中心となって、難病や障がいのある子どもたちとその家族を支える活動を創設し、牽引されました。

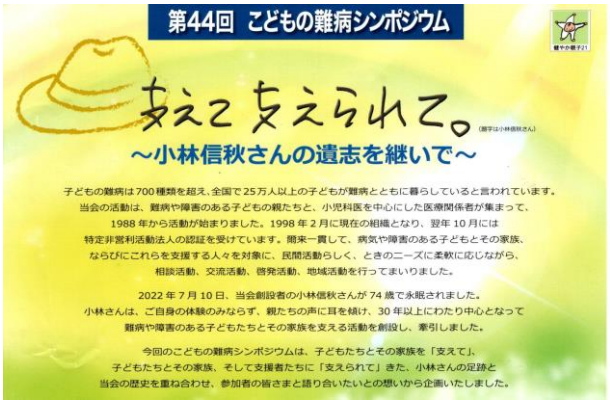
今回のテーマは「支えて　支えられて。」です。子どもたちとその家族、支援者と歩まれた小林さんの足跡と会の歴史を重ね合わせ、参加者と語り合いたいとの思いから企画されました。会場は、全国から小林さんと由縁のあった方が一堂に集い、それぞれが想い出を語る特別な時間であったと思います。

私は、現在、ぶどうのいえでボランティアをしています。7 年になりますが、ぶどうのいえの 20 周年記念誌に小林信秋さんのお名前があり、ぶどうのいえの基礎を作られた偉大な方だと伺いました。

今回、シンポジウムに参加してとても印象に残ったことがあります。それは、30 年以上にわたって小林さんが取り組んだ活動を有志の皆さまがしっかり受け継ぎ、盛り立てていこうとする強い団結力です。様々な分野を開拓する仕事に携わって来られた方々が、小林さんと仕事が出来て本当に楽しかった、幸せだったとその想いを熱く語られました。お話を伺い、人は一人では生きていけない、関係性の中で支えて支えられて生きていくものだということを再認識することができました。

電話相談、親の会連絡会、がんばれ共和国、ピアサポート、あおぞら共和国に携われた皆さまのお話は喜びとやりがいに溢れ、とても刺激になりました。有難うございます。

企画やスムーズな司会進行など、運営に携われた皆さまに心から感謝申し上げます。



シンポジウムに参加して

鵜飼良機

6月25日（日）、「こどもの難病シンポジウム」に参加しました。「認定NPO法人 難病のこども支援全国ネットワーク」の主催で何人かの講師による講演と参加者の語り合いというプログラムで行われました。「ぶどうのいえ」からは理事長、副理事長、ボランティアを含め総勢6名が参加しました。

第 44 回という今回は～小林信秋さんの遺志を継いで～という副題がつけられておりました。小林信秋さんは昨２０２２年７月に永眠されましたが、その副題からも、各講演の内容からも難病のこども支援に非常に大きな功労があったことが察せられました。また、この方は私たちの「ぶどうのいえ」の設立にもかかわりを持っています。

休憩時などにぶどうのいえのリーフをいれたティッシュペーパーとともにパンフレットを配りました。親の会連絡会参加団体の方々にお渡しし、言葉や挨拶を交わしました。

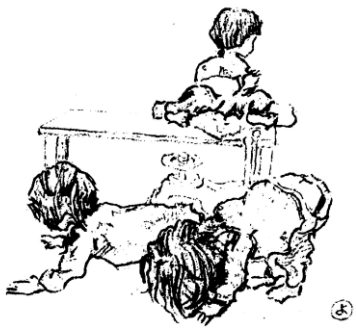
そこで感じたことは、私たちもこれまで「難病のこども支援全国ネットワーク」を良く知らなかったが、親の会の方々も「ぶどうのいえ」を知らなかった、ということです。広報活動の重要性を認識致しました。

子どもの難病は７００種類を超え、全国で２５万人以上の子どもが難病とともに暮らしているとのことです。「難病とたたかう子どもと家族のための滞在施設ぶどうのいえ」が果たすべき役割を痛感させられました。

シンポジウムに参加して

見目政隆

私の子ども二人は25年以上前に米国で心臓移植を受けています。
今は二人とも社会人として働いていますが、かつては家族で国内外の病院を転々としました。
また、二人が命の危機から脱した後は、移植を必要とする日本の患者さん達を国内で助けるため、私は臓器移植法の改正実現に長年取り組みました。
そして仕事を減らした昨年末から、患者さん達の役に立つことをしたいと思い、当施設でボランティアを始めた次第です。
しかし暫くして判ったのは、利用者がほとんどいない当施設の窮状でした。
もちろんコロナの影響は甚大ですが、広報不足も大きな原因と思いますので、
① 近隣病院へのPR
②インターネット検索への対応
③難病患者さん達へのPR
等に取組む必要があると考えます。
そして今回のシンポジウムへの参加は③でもあります。
患者さん達のことを知り、「難病とたたかう子どもと家族のための滞在施設」の存在を知らせることは、お互いにとってとても有益なことだと思います。
シンポジウム会場ではお渡ししたパンフレットを見て、「ぶどうのいえ」は知らなかったが他の人にも教えたい、と好意的に話して下さる方々もいらっしゃいました。
時間はかかりますが、今回のような機会も含めて私達の存在を知らせて、もっと多くの皆さんの役に立ちたいと思います。



☆ 「日本難病・疾病団体協議会」

4 月 17 日に常務理事の辻邦夫氏が来訪されました。施設を見ていただき、当方の３名と懇談。
ぶどうのいえとの連携をお願いしました。
後日、全国の所属団体にメールで紹介されました

☆「ノーベルファーマ株式会社」

5 月 25 日に蔭山真知子氏より連絡をいただきました。5 月 13 日の「難病の子ども支援全国ネットワーク」親の会連絡会での Zoom 紹介を見て下さったそうです。
「子ども難病生活情報サイト　いんくるーしぶ」にリンク掲載を認められました。

☆「全国心臓病の子どもを守る会」

6 月 12 日に元会長の斉藤幸枝氏が来訪されました。当方３名と懇談。
2018 年にも来訪、見学され、その時のお話しもでました。
新しく建設予定の「リハートハウス吹田」について伺いました
人工心臓治療を受けて、ドナーによる移植を待つ子ども達の待機施設です.

完成予想図

☆「守口ぶどうのいえ」

6 月 27 日に施設長の義平雅夫師来訪されました。施設を案内し、当方４名と懇談。
守口ぶどうのいえとは開設の段階からのお付き合いです。
こちらのスタッフが懇談に訪問したり、向こうのボランティアさんが研修にみえたり、と姉妹施設としての関係が続いていました。
しかしコロナ禍では、電話での問い合わせ程度の交流しかできませんでした。
今回、5 月から施設長になられた牧師の義平師が訪問され、ぶどうのいえの運営ノウハウや体験、互いの問題点などを話し合いました。
とても熱心に質問もされて、話は尽きないところでしたが、お忙しいので又の機会に、と３時間ほどの懇談でした。

〝東京聖テモテ教会 120 周年フェスティバル〟

2023 年 4 月 29 日

ぶどうのいえは手芸品のお店を出しました。
手作り巾着、刺し子のリネン、手提げ袋、など。
天候に恵まれ、暑いくらいでした。
かつてのボランティアさんも訪ねてくださり、
一緒に楽しみました。

「医食同源３」―夏野菜　キュウリ、トマト―

近頃では、ハウス栽培が盛んなので、野菜の季節感は失われている。筆者が子供の頃は、冬にキュウリやトマトを食べることは不可能であった。今や季節を問わず店頭に並ぶ時代である。
一般に夏野菜といわれている野菜、キュウリ、トマトについて、紹介する。

キュウリ：日本には仏教文化と共に遣唐使によってもたらされたようである。当時は薬用として使われていた。

生で食べると「熱」を取るといわれ、熱のある病気や口が乾いた時に有効である。煮て食べると利尿作用が盛んになり、また解毒作用もあるといわれている。胃腸が弱い人は食べ過ぎると下痢の原因にもなる。日焼けした時は、薄切りキュウリでパックをすると火照り（ほてり）が治まり肌が潤う。さらに果実に含まれるカリウムは、体内に蓄積されたナトリウムを排泄して、血圧上昇を抑制する効果もあるという。

キュウリは栄養のない野菜のナンバーワンかと思われていたが、大根おろしのように、すりおろした「すりおろしキュウリ」は脂肪分解酵素「ホスホリパーゼ」、利尿成分「シトルリン」、タンパク分解酵素「プロテアーゼ」、香り成分「スミレ葉アルデヒド」や苦み成分「ククルビタシン」を含むので近年注目されている。キュウリの細胞膜がおろし器で壊され、酵素が活発に働くようになる。但しすりおろして長い時間放置すると酵素は激減する。

トマト：トマトの原産地は、南米ペルーであり、16 世紀前半にヨーロッパに伝わり、当時は鑑賞植物とされ、「愛情の果実」といわれ「惚れ薬」にされたこともある。筆者が少年時代は、井戸水などで冷やして食べたこともあった。数年前に福島県南会津の大内宿を旅した際、小川に置かれた笊で冷やしたものが売られているのを見かけて懐かしく思い出した。

トマトの薬効として降血圧作用がある。トマトジュースには味を良くするために、塩分が入っているので、血圧の高い人は是非「無塩」の品を選んでもらいたい。β-カロテンやリコピンが多く含まれているものも市販されていて、動脈硬化予防作用やがん予防の効果が期待できるという。リコピンの抗酸化作用はカロテンの 2 倍、ビタミンの 100 倍と言われている。

最近は、ミニトマトのブームであるので、実の付いたミニトマトの苗を孫に贈ったところ、それまであまり好きではないと言っていたのが、水やりをして赤くなるのを待って食べたら、それ以来トマトが好きになったと報告してくれた。

みなさん、免疫力がつく食べ物で今夏の猛暑を乗り切りましょう！

堀内　昭（前ぶどうのいえ理事長）

★　ありがとうございました

寄付・会費納入の方々　　（順不同・敬称略）

大畑喜道　三村信子　鵜飼良機　鵜飼久美子　菅原仁美　梅田晶子　西田恵子　見目政隆　宮﨑なを　小林力　匿名　加藤誠　鈴木洋二　東弘彦　堀楚乃子　冨塚康子　渡辺洋子　鈴木百合子　倉辻明男　酒井三貴子　匿名　上松恵子　別所文雄　山形寿太郎　田中芳子　岡田順子　岩竹節子　内ヶ崎儀一郎　内ヶ崎昌子　田中応佳　横山融　北原和夫　前田美穂　野島千恵　大隈廣　早川和子　木村義介　堀内昭　堀内紀子　荒川雄行　荒川こずゑ　荒川温子　小口淳子　水落紀代子　倉田静江　大岩良至　土屋賢一　岡村ゆき子　椎橋照子　松原真　安形ふさ子　渋谷弘子　大隈廣　木村義介　本田佳奈　おはなし夢夢・尾松純子　立教女学院キリスト教センター　丸田研一　埼玉章子　住吉秀一　大城敦　辻善章・育美　渡辺洋子　飛松一樹　ウンノトシミツ　立教女学院　宮嶋恵一　堀内昭　大隈廣　ボランティア有志　堀内昭　森村学園福祉 OG 会・三浦優子　奥野貢　戸叶園實　木村純子　戸村祐宇子　石橋聖トマス教会　大隈廣　西田恵子　堀内紀子　渡辺初美　木村義介　岸まち子　早川和子　菊地純子　匿名　大森明彦

（2023・4・1～2023･6･30）

★　ありがとうございました　　(順不同・敬称略)

大隈敬子（切手）　森薫（ラップ・保存パック・ホイル）

（2023･4･1～2023･6･30）

お知らせ

尾松純子 語りの世界（予定）

2023 年 12 月 16 日（土）東京聖テモテ教会ホール

詳細はお問い合せ下さい。　イベント事務局　鵜飼　03-6205-5531

後記

久しぶりに夏号をお届けします。最近の活動を皆様にお伝えできました。様々な団体の連携で活動の幅を広げたいと思います。

たよりへのご意見、ご要望をお寄せください。　　編集：堀内（紀）・西田

認定 NPO 法人　ぶどうのいえ

ホームページ　https://www.budounoie.jp/
E-mail　jimukyoku@budounoie.jp
郵便振替口座名　特定非営利活動法人ぶどうのいえ
郵便振替口座番号　00120-2-540161